

平成19年度 事業計画書

自 平成19年4月1日
至 平成20年3月31日

東京都中央区築地2丁目11番24号
(財)日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)

平成19年度事業方針

「競技スポーツ」「生涯スポーツ」両方の参加者の満足度を向上し、会員を増やすこと、並びに年少者の普及と育成を目標とする。

国際関係においては、アジア地域を活性化し日本のモーターサイクルスポーツの発展にも繋がる方向の施策検討が必要であると考えている。

重点項目

☆ 年少者／女性の普及対策

モーターサイクルスポーツの次の世代を担う若者と女性のスポーツ参加を促進する。

- ・ MFJ ロードレースアカデミーの継続／ステップアップの道筋明確化
- ・ トライアルアカデミーの新設(年少者・女性)
- ・ 女性ロードレースクラスの検討・試験的实施

☆ 会員の満足度向上

年齢や性別を問わず楽しめる競技会を提供するために、既存種目の改善、新規種目の促進を行う。

- ・ スーパーモタード／エンデューロ／ミニロード／GP-MONO 等の普及振興
- ・ モトクロス・ロードレース地方選手権など既存種目の活性化
- ・ 競技役員の養成・地域における組織化

☆ 社会的認知の向上

モーターサイクルスポーツの社会的認知を向上し、文化として継承して行くことを目指す。

- ・ ライダー・チーム・主催者と協力し、観客視点の施策を検討・実施。
- ・ メディア露出の強化。
- ・ アジアとの連携（国別対抗戦・人材育成への協力）
- ・ FIM でのワールドカップ構想推進
- ・ 災害ボランティア等社会貢献活動への協力、地域行政との連携などを促進する。

以上

I. 普及対策

1. 年少者スクールの実施

1) MFJロードレースアカデミー

2年目を迎えるMFJロードレースアカデミーは初年度のカリキュラム等運営状況を検証し、内容の充実と受講者数のアップを目指し開催する。本年は充分ではなかったフィジカルトレーニングに加えてメンタルトレーニング等この年代層に応じたカリキュラムも検討。会場は本年同様ツインリンクもてぎに協力いただき、年間の講習回数は前年度を踏襲した形で進めたい。

- ・ 名称：MFJロードレースアカデミー in Motegi
- ・ 会場：栃木県・ツインリンクもてぎ
- ・ 主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会
- ・ 期間：2007年4月～12月（10回・22日間予定）
- ・ 募集：15名（12歳～15歳） 受講料 30万円

2) MFJトライアルアカデミー

ロードレースと同じく、年少者の数が極端に少ないトライアルにおいては若手育成が急務であり、年少者と女性を対象としたスクールを開催する。

- ・ 名称：MFJトライアルアカデミー
- ・ 会場：茨城県・真壁トライアルランド
- ・ 主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会
- ・ 期間：2007年6月～10月（11日間）
- ・ 募集：20名 年少者（9歳～18歳）女性（年齢問わず） 受講料 10万円

3) 少年・少女モーターサイクルスポーツスクール

NMCA日本二輪車協会と共同主催している少年・少女モーターサイクルスポーツスクールを4月より約30回開催予定。

4) 支部・施設・クラブ等の既存スクール主催者と連携し開催を拡大する。

2. エンジョイ会員制度

エンジョイ会員普及の為に、手軽に楽しめる承認競技会が増えることが必要であり、MFJ承認競技会を開催する為の要件やスポーツ傷害基金制度等について周知徹底し、主催者を増やすよう努める。

MFJ本部または支部のホームページによる承認競技会の情報発信を強化する。

3. 競技役員対策

競技会を支える競技役員の高齢化や人材確保が問題化しており、新たな人材の育成と既存の競技役員への対策、地域ごとの組織化などを検討する。

II. 各種目の普及対策

1. ロードレース

1) 世界選手権／特別競技会

- ・ 世界耐久選手権鈴鹿 8 時間耐久レースを 7 月 26 日(金)～29 日(日)に三重県・鈴鹿サーキットにて開催。同大会の『FIM カップ 国別対抗賞』を継続し、国際交流を促進する。
- ・ MotoGP 世界選手権を 9 月 21 日(金)～23 日(日)に栃木県・ツインリンクもてぎにて開催。
- ・ 鈴鹿 300km ロードレース大会(特別競技会)6 月 9 日(土)～10 日(日)
- ・ もてぎ 7 時間耐久ロードレース(特別競技会)8 月 18 日(土)～19 日(日)

2) 全日本選手権

- ① 全日本選手権は全 7 戦 (JSB 以外は 6 戦) 開催する。最終戦 MFJ グランプリ鈴鹿大会は選抜大会として開催する。
- ② JSB 1000 を全日本選手権の興行の核となるメインクラスとして位置付け、観客やメディアにアピールできるようプロモーション施策を集中し、国内のチーム・ライダーの目標となるクラスとする。
- ③ ST600 は主に走行安定性向上を目的に車両改造限度を改定した。コンストラクター・地域販売店・パーツメーカーなど幅広い支持を得ることを目標とし、JSB を目指すチーム・ライダーの育成の場とも位置付ける。
- ④ GP125 クラスは若手育成のクラスとして位置付け、17 歳以下の「ユースクラス」設定する。MFJ アカデミー等にて若手を育成し、このクラスに繋げ、ユースクラスの優秀なライダーが他のクラス、または、MotoGP アカデミーや世界選手権へステップアップを目指せるように推進する。
- ⑤ GP-MONO は参加型のクラスとして位置付け、国内/国際の混走で参加し易い環境を維持し、まず参加台数を増加させることを目標とする。
- ⑥ プロモーション委員会／支部を中心に観客動員の強化を図る。

3) 普及対策

① チャレンジカップ・地方選手権

競技志向の参加者に対し全日本を目指すもの、地域でレース活動を楽しむものの両方に目標と満足度を与えられるように、全日本選手権の各クラスの位置づけに連動するように開催クラスやレース内容の抜本的な改革の検討の時期に来ており、6月までに検討し諸施策を決定する。

② ミニロード/ミニバイク

生涯スポーツとして手軽に安価に楽しめる同カテゴリーのレースが活性化しており、規則改訂/告知広報等にて協力する。

また、同カテゴリーによるジュニアレースを検討する。

③ 女性ロードレースの実施

女性のロードレースライセンス所持者は150名以上存在し、アンケート調査と意見聴取を行った結果、女性だけのレースの希望も多く、人口の多い関東エリアで試験的に女性レースを実施することとした。実施結果から諸問題点等の検証を行い将来的な企画を検討する。

開催日：2007年4月8日(土) 会場：茨城県・筑波サーキット

使用車両：MFJ7がミ-用150ccを貸与 定員:15名

2. モトクロス

① 世界選手権/特別競技会

・5月28日(土)/27日(日)にスポーツランドSUGOにおいて世界選手権モトクロスを開催。同大会の観客動員に協力する。国内モトクロスライダーの技量向上を目的に参加枠を増加する。

・7月1日 北海道千歳にて国際A級を対象とした特別競技会を開催予定。

・11月4日 埼玉県オフトビレッジにてオルスタ-MX(特別競技会)開催予定。

② 全日本選手権は全10戦開催。関東大会の会場が埼玉県のオフロードビレッジに変更され、都心近郊での観客動員が期待される。地域行政との連携等、活性化に寄与する対策が強く望まれる。

③ レディースクラスの普及振興

全日本レディース選手権を全10戦で開催し、地域への波及を目指す。MFJホームページ内のレイアウトMXページにて随時情報を掲載する。

④ 年少者の普及振興

チャイルドクロスは全日本全10戦で併催し、最終戦は全国選抜大会とする。地

方選手権においてもクラス設定し、地域の普及を推進する。

⑤ モトクロス全国大会

国内 A/B 級の全国選抜大会を昨年多くの参加者を集めた中国地区（グリーンパルク弘楽園）にて 8 月 26 日に開催。支部対抗戦等の賞典を設ける。

3. トライアル

① 世界選手権トライアルの開催

8 回目(2000 年から)を迎える世界選手権トライアルをツインリンクもてぎにて 6 月 2 日(土)3 日(日)に開催する。この大会はトライアルの認知に大きく貢献しており、観客動員に協力する。

② 全日本選手権

全日本戦選手権を全 8 戦開催。スパ - A 級に観客が見やすいスペシャルステージを設ける等観客対策を促進する。また、若手育成の為に 125 クラスを国内 A 級以上のライダーを対象に国際 B 級のマシンを使用し実施する。

③ トライアルランドチャンピオン大会

国内 A/B 級の全国選抜大会である同大会を九州の矢谷溪谷にて 11 月 11 日に開催する。

4. その他の競技

(1) スノーモビル

全日本選手権を新潟・北海道・青森・長野で全 6 戦開催する。久しぶりに復活する新潟大会は中里スキー場にて地域行政の支援を得て観客アピール・観光客誘致を目的に開催される。

(2) ドラッグレース

全日本選手権を鈴鹿・もてぎにて 3 戦開催する。新たな会場探しが課題。

(3) スーパーモタード

全国を転戦する MOT01 オールスターズを 7 戦開催する。また、エリア戦では中部エリアが新設され、東北/関東/中部/近畿/中国/九州/沖縄でそれぞれ 5 戦程度開催される。

(4) エンデューロ

エンデューロライセンス対象の全日本クラスを設けるオンタイムルールの競技会を以下の 3 大会実施する。

第 1 戦 4 月 14/15 日 SUGO 第 2 戦 7 月 28/29 日 北海道/夕張

第 3 戦 9 月 15/16 日 熊本・御所木トラスト

Ⅲ. 補助金対象事業

1. 日本小型自動車振興会補助金申請事業

申請事業：国内競技規則書

Ⅳ. 地方組織について

1. 支部内の施設、主催者、クラブ、ショップが連携し、地域内の情報を共有し、主要競技会の観客動員や競技会開催告知など、地域における様々な普及活動をサポートする組織として活動する。特に各支部のホームページを通じて競技会情報の公示を充実する。
2. MFJネットワークショップ
各支部より引き続き加入の勧誘を行う。情報提供、ツールの提供などは本部と施設が主に行うが、地域情報については支部からも発信する。支部内の主要イベントについては引き続き、ポスター/招待券/割引券の発送などのサービスを継続する。
3. 地方組織支援金を本部提唱の各種普及活動に生かす。
上記を進めるため、支部長・事務局長会議を定期的で開催する。

Ⅴ. その他の事業

1) 広報対策

- ① 機関誌ライディングの発行（年間8回+規則書）
機関誌とホームページの情報内容の仕分け、相互補完を充実させ、総合的に情報発信力を高める。
- ② プレリリース（地方メディア向け）による地域ごとの全日本情報などの発信で主要競技会の観客動員の向上を目指す。
- ③ MFJホームページの充実
 - ・ アカデミー・女性レース等施策のPR
 - ・ 動画配信の継続とPR
 - ・ エンジョイ会員向け情報の発信（承認競技など）
 - ・ 結果速報/レポート/写真の継続・モバイル/エンゲージメント等の強化
 - ・ 競技結果のデータベース構築
- ④ プロモーション委員会活動
 - ・ 全日本RD/MX全戦をCS放送にて放映、全日本ロードレース・モトクロス
の地上波ローカル局での放映。

- ・ 専用ホームページ「superbike.jp」による情報発信の充実
- ・ ネットワークショップ向け観戦ガイドブック等情報提供
- ・ ファンクラブ運営/来場者サービスの充実

2) 安全対策

- ・ ロードレースの総合的安全対策の検討
- ・ モーターサイクルライフェリング機構 (LSO) に加盟、支部ごとにレスキュー講習会を実施する。(年間4回予定)
- ・ ロードレースにおけるサーキットアドバイザー制度の補助。
- ・ 公認コースの更新査察を実施。
- ・ モトクロスの観客安全対策の強化。
- ・ 年少者用はじめ各種テキストの制作と見直し。

3) 代表選手派遣

- ① モトクロス・トライアル国別対抗世界選手権に日本代表チームを派遣する。
MX=9月23日/USA TR=9月30日/マン島
- ② アジアロードレース国別対抗戦に日本代表チームを派遣する。
- ③ 全日本GP125クラスのチャンピオンを08年MotoGPアカデミーに推薦する
- ④ エンデューロの国別対抗戦 ISDE へ出場するチームを選抜し認定する。
- ⑤ アジア国別対抗モトクロス (11月・中国) へ日本代表チームを派遣する。

4) 国際対策

- ① FIMバイアニュアルミーティング (10月ジュネーブ) へのロードレース委員会、モトクロス委員会への委員派遣並びに事務局員の派遣。
- ② アジア選手権大会への選手派遣。
- ③ FIM規則の翻訳。
- ④ 国際コミュニケーションの活性化。
- ⑤ FIMロードレース、エンデューロ、メディカル、技術セミナーの開催。
- ⑥ 国別対抗選手権の確立。

5) アジア国別対抗ロードレースの実施

『アジア国別対抗ロードレース』を開催し、アジアとの交流をはかる。

開催月日：5月12日・13日 会場：茨城県・筑波サーキット

使用車両：MFJアカデミー使用の150cc車両を貸与。

参加資格：UAM所属の各国協会1チーム2名まで。

※使用車両の提供と国内交通費等がMFJ負担となる。

6) 50周年記念事業の準備

2011年に協会設立50周年を迎える為、記念事業の検討と準備を開始する。あ

7) 諸会議の開催

MFJのスポーツ事業を円滑に推進するために必要に応じて諸会議を開催する。

- ・理事会/評議員会(5月/12月)・支部長/事務局長会議
- ・中央スポーツ委員会・技術委員会・専門委員会・部会

8) 公益法人見直しへの対応

国が提唱する公益法人の見直し方針に沿って、公益法人として要求される会計基準や組織の整備、スポーツ傷害基金の取り扱いなど検討を進める。

9) 情報管理システムの更新

協会の情報管理システムのソフトのバージョンが旧式化し、バックアップサービスが受けられなくなることから、全体の見直しと更新作業を進める。

10) 人材育成

インストラクター養成事業(6月23日東京にて開催)の継続ならびに、メカニックの認定制度の実施、競技役員セミナー等の人材育成を行う。

11) スポーツ傷害基金

スポーツ傷害基金の年次計画の策定、管理・運営を行う。

IV. MFJの主催・共催競技会

下記競技会を共催する。

・5月26日/27日	モトクロス世界選手権日本GP	スポ-ツランド SUGO
・6月2日/3日	トライアル世界選手権日本GP	ツインリンクもてぎ
・7月27日/29日	世界耐久選手権鈴鹿8時間耐久	鈴鹿サーキット
・9月21日/23日	ロードレース世界選手権日本GP	ツインリンクもてぎ
・8月26日	モトクロス全国大会	グリーンパ-ク弘楽園(広島)
・10月20日/21日	全日本選手権モトクロス MFJGP	スポ-ツランド SUGO
・10月20日/21日	全日本選手権ロードレース MFJGP	鈴鹿サーキット

以上